（別紙様式）　　（Ａ３判横）

令和６年度　学校自己評価システムシート（県立本庄高等学校　全日制課程）　n05

目指す学校像	活力ある進学校

重点目標	
	１　日常の授業で生徒を支える学校づくりと質の高い学びの実現 ２　学校行事及び部活動を通じた活力あふれる学校づくりと第一志望進路を実現する進路指導 ３　情報発信・外部機関連携及び姉妹校交流を通じた、地域・世界に開かれた学校づくりの推進

達成度		
	A	ほぼ達成（８割以上）
	B	概ね達成（６割以上）
	C	変化の兆し（４割以上）
	D	不十分（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者		
	学校関係者	６名
	生徒	４名
	事務局（教職員）	８名

※　重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※　番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価								学校関係者評価
年度目標					年度評価（　1月　22日　現在）			実施日　令和　7年　1月　23日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	【現状】 ○大学入試対策・進路実現への指導・ICT活用の体制は整っている。 ○授業等への生徒の評価は高い。 【課題】 ○更なる学力向上のため生徒が「自走」する力を育成する必要がある。 ○ICT活用の充実を図る必要がある。	日常の授業で生徒を支えるための授業研究・改善	1 企画委員会を核とした校内組織を活かす学校運営の改善に加え、授業改善に係る担当組織の設定による学校全体での授業研究・改善の推進 2 更なるICT活用に向けた研究・実践・情報共有の強化 3 生徒の興味の幅を広げ知識を深める読書等の推進	1-1 組織力を活かした学校運営及び授業改善を検討、推進できたか。 1-2 生徒ｱﾝｹｰﾄの学習支援に関する項目で肯定的な回答が８割を超えたか。また自ら学ぶ意識は高まったか。 2 効果的な取組が実践できたか。 3 生徒ｱﾝｹｰﾄ「学校は生徒の個性や能力を伸ばしている」が８割を超えたか。	（良好）日常の授業研究や授業改善への教職員の意識付けが浸透しつつある。 1-1 目指す学校像に関する職員研修、授業研究・改善の職員研修会 1-2 学習支援に関する生徒ｱﾝｹｰﾄでは 86%が肯定的な回答をした。 2 Classi の活用研修、電子採点ｼｽﾃﾑの活用拡大を行った。 3 当該項目の肯定的回答が 82%に達した。	A	【課題】 ○継続して生徒を「自走」させる取組の一層の充実が必要である。 ○組織的な教員の授業研究改善を支援する取組が必要である。 【改善策】 ○主体的で対話的で深い学びを実現する授業の実践と教員の授業研究改善を支援する取組の推進。	授業の研修に取り組んでいることは素晴らしい。わかる授業をするということは、基本なので引き続きこのような取組をお願いしたい。 授業改善には様々な方法があるが、その一つとして板書の工夫等も良い。途中で集中力が切れた生徒が、授業内容に戻れる工夫が大切。 教諭が考査を作成しているが、一般的な競争力を育てるまでに至らない場合がある。業者テスト等を見据えた対応も必要であろう。
	【現状】 ○学習指導要領に基づくｶﾘｷｭﾗﾑ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄや授業改善が求められている。 ○1年次は32単位教育課程となった。 【課題】 ○体系的な教育活動に向けたｶﾘｷｭﾗﾑ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの充実を図る必要がある。	ｶﾘｷｭﾗﾑ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの充実。大学入試改革に対応した取組の実施	1 教育課程委員会を中心とした、適切なｶﾘｷｭﾗﾑ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの実施及び改善 2 大学入試改革について対応の検討及び取組の実施 3 総合的な探究の時間を始めとする探究活動の充実	1 ｶﾘｷｭﾗﾑ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの実施・改善を行い、教科横断的な取組等を検討・実践することができたか。 2 大学入試の分析・新たな情報をもとにした取組を検討・実践できたか。 3 探究活動の実践や次年度に向けた検討を行うことができたか。	（良好）目指す学校像の具体化を通して、育てたい生徒像の明確化に取り組んだ。 1 意識的に教科の枠を超える授業に取り組む教員が増加した。 2 総合型選抜等の年内入試受験指導の拡大、大学訪問等による情報収集を実施した。 3 3年間を通じた総合的な探究の時間の計画を策定した。	A	【課題】 ○総合型選抜等における教員の指導力の一層の向上が必要である。 【改善策】 ○様々な受験形式に関する組織的な情報収集及び教職員向け情報共有や研修等の実施。	
2	【現状】 ○生徒主体の学校行事が複数あり、部活動加入率は約８割である。 【課題】 ○学習と学校行事・部活動との文武両道の実現と自主・自律の精神を育む指導の一層の充実が必要である。	自律の精神が生かされた工夫ある学校行事・部活動及び自主・自律の精神を育む生徒指導の実施	1 生徒が主体の工夫と活力があふれる学校行事や部活動の実施 2 自主・自律の精神を育む効果的な生徒指導の実施 3 健康で安全な学校教育の実現と災害対策の徹底	1-1 生徒ｱﾝｹｰﾄで学校行事や自主活動に関する項目でプラスの評価が８割を超えたか。 1-2 生徒ｱﾝｹｰﾄで部活動加入者のうち「学習と部活動が両立できている」が７割を超えたか。 2 効果的な生徒指導が行えたか。	（概ね良好）既存の行事に限られるが、生徒会を中心に自主自律の活動を推進した。 1-1 当該項目の肯定的評価が 90%であった。 1-2 当該項目の肯定的評価が 64%であった。 2 生徒の自主性を重んじた生徒指導及び必要に応じた交通安全指導や整容指導を行った。	B	【課題】 ○生徒個々の自己指導能力の育成。 【改善策】 ○生徒主体の学校行事や部活動等の一層の充実。 ○生徒の実態に応じた、より柔軟な生徒指導の実施。	大学受験について、年内入試が増えていることや、浪人が少ないということに驚いている。チャレンジするよりも家庭に負担をかけないという傾向が強くなっていると感じられる。また、塾の指導の影響もありそうである。 やりたいことがあって本校を選ぶ生徒も少なくない。支援を継続するためには、マンパワーが課題になるが、同時に負担軽減も実現する必要がある。 高校生のインターンシップの受け入れなどを行っている企業もある。生徒の進路指導やキャリア教育に資するという観点で活用してみてはどうか。 小学校での情報教育はＩＣＴ支援員がやっているが、興味関心を持った児童はその先もやりたがっている。高校との連携ができないか。
	【現状】 ○進路指導部を中心に生徒個々に応じた進路指導を実施している。 【課題】 ○一般受験や公募推薦、総合型選抜などによる大学進学を目指す意識の醸成及び大学卒業後を見据えたｷｬﾘｱ教育の一層の充実が必要である。	第１志望の進路を実現する進路意識と学力の向上及びｷｬﾘｱ教育の充実	1 きめ細かい科目選択指導・個別指導と、入試改革を踏まえた的確な進路情報の提供と指導の実施 2 年次と進路指導部が連携し、各教科の専門性を活かした計画的な進学指導の実施。 3 進路について「高い志」を持たせ生徒が自ら考え決定できるｷｬﾘｱ教育の実践	1 生徒ｱﾝｹｰﾄ「進路指導はきめ細かな指導か」が８割を超えたか。 2 ３年次の進路指導に満足・ほぼ満足する生徒が８割を越えたか。 3 大学卒業後のｷｬﾘｱを考えるｷｬﾘｱ教育が実施できたか。	（良好）補習委員会の設置等、生徒を継続的に支援する体制を構築した。 1 当該項目の肯定的評価は 79%であった。 2 当該項目の肯定的評価は 79%であった。 3 大学見学会、進路相談会やｷｬﾘｱﾊﾟｽﾎﾟｰﾄを活用したｷｬﾘｱ教育を実施。県主催のｷｬﾘｱ教育ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ等への参加促進。	A	【課題】 ○目先の進路に捉われない、人生設計等の視点を踏まえた指導の充実が必要である。 【改善策】 ○社会や働くこと等を学ぶ機会の提供。 ○生徒の学びと自己のｷｬﾘｱを関連付けるｷｬﾘｱ教育の一層の充実。	
3	【現状】 ○100年を超える伝統校であり、様々な方々の支援を受けている。 ○県北部の中学生数は減少傾向である。 【課題】 ○幅広い情報発信を可能とする新たな情報発信ﾂｰﾙの検討が必要である。 ○学校の魅力化の推進と中・長期的な視点に立った生徒募集が必要である。	伝統校の学校活動を多くの人に伝える情報発信と中長期的な視点での生徒募集の実施	1 ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞや広報誌、PTAや同窓会と連携した学校活動の情報発信 2 新たな情報発信ﾂｰﾙ導入の検討及び活用 3 中学生への説明会等の実施及び小学生等への本校の魅力を伝える取組の検討	1 ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞや広報誌、PTA や同窓会と連携した取組により学校活動の情報発信を行うことができたか 2 新たな情報発信ﾂｰﾙを導入し、幅広い情報発信ができたか。 3-1 中学生に対し本校の魅力をわかりやすく伝える説明会が実施できたか。 3-2 小学生等に本校の魅力を伝える取組を検討することができたか。	（良好）本校の不易の部分を強みとした広報が実現できた。 1 ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞの更新が 160 回を超えた。 2 ｲﾝｽﾀｸﾞﾗﾑを開設し、情報発信を実施した。 3-1 学校説明会の内容の充実及び中学校での高校説明会や上級学校訪問の受け入れ、近隣の塾訪問を実施した。 3-2 70 万人体験活動の一環として近隣の複数の小学校との交流事業を実施した。	A	【課題】 ○生徒募集に係る計画的な情報発信や数年後を見据えた小学生等への本校の魅力を伝える取組の充実が必要である。 【改善策】 ○ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞやｲﾝｽﾀｸﾞﾗﾑでの情報発信の一層の充実。 ○小学生等向けの本校の魅力を体験できる取組等の検討。	１２月の倍率を見ても先生方が魅力ある学校づくりをしていることが窺える。本庄高校に行きたいという中学生は多い。「憧れる学校」を継続してほしい。 行事は、昔から本高生が経験し引き継いできたことで、本高の文化となっていると思う。 生徒会としては、新入生歓迎行事の見直しで、部活動オリエンテーションを充実させることができた。 学校内部だけでなく、外部でも活躍しようとする意識は、きめ細やかな指導の成果でもあると思う。学校アンケートを見ても、多くの保護者が入学させてよかったと思っている。 生徒会として、国際交流事業や闇バイトの防止活動に参加した。アルバイト等とは異なる視点での学びを得た。 在学中に外部に目を向ける契機を作り、それを伸ばしている点が評価できる。学校生活が本分だが、外部での活動にも積極的に参加してほしい。
	【現状】 ○ｵｰｽﾄﾗﾘｱ姉妹校と連携した取組が可能であり、地域と連携し、教育活動の充実を図っている。 【課題】 ○世界にはばたく「高い志」持った生徒の育成に向けた取組の充実や生徒の新たな活躍の場を増やすため地域・産業界と連携を深める必要がある。	地域・産業界やｵｰｽﾄﾗﾘｱ姉妹校との連携により、学校外での生徒の学びの場の充実	1 ｵｰｽﾄﾗﾘｱ姉妹校への海外研修及びﾀｰﾑ留学、ｵﾝﾗｲﾝなどを活用した国際交流事業の推進 2 地域・産業界と連携した生徒の学びの幅を広げる取組の推進	1 ｵｰｽﾄﾗﾘｱ姉妹校との交流を計画的に実施することができたか。 2 地域・産業界と連携した取組が増えたか。	（良好）ｺﾛﾅ禍で中断されていた海外研修を復活させることができた。 1 10 日間の海外研修、ｵﾝﾗｲﾝによる交流を実施した。ﾀｰﾑ留学は先方事情により延期となった 2 本庄市の七高祭やほんじょうFM、県の国際交流事業へのﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ参加等、生徒の活躍の場を充実させた。	A	【課題】 ○世界にはばたく意識の醸成とその背景にある日本文化の理解が必要である。 【改善策】 ○世界で活躍しようとする意識の醸成及び地域・産業界との連携した取組の一層の充実。	